

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	文学作品を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解により、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。また、現代社会で求められる言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけ活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話しの確に聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる。客観的に主体的に思考、判断することができる。
	A わかる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	相手や場に応じて話し聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる力を磨く。客観的に主体的に思考、判断する力を磨く。
	B できる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解することができる。自分の考えを文章にまとめられる。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現しようと努力する。客観的に主体的に思考、判断できる力をつけようと努力する。
	C する	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分での考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察 定期考査 提出 スト 定課題 漢字テ	授業態度の観察 定期考査 提出 定課題 作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』(随想) 『言葉を理解する』(評論) 『マスク』(小説) 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	『博士の愛した数式』(小説) 『おまえはどこに立っている』(随想) 『小説とは何か』(評論) 小テスト、作文、漢字テスト
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院
教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院
「常用国語便覧」浜島書店
「新版高校漢字必携」第一学習社編集部
各種プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習(発表)
グループ学習(発表)

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育	
目 標	文学作品を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解により、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。また、現代社会で求められる言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけ活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話しの確に聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる。客観的に主体的に思考、判断することができる。
	A わかる 言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	相手や場に応じて話し聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる力を磨く。客観的に主体的に思考、判断する力を磨く。
	B できる 言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解することができる。自分の考えを文章にまとめられる。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現しようと努力する。客観的に主体的に思考、判断できる力をつけようと努力する。
	C する 言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分での考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	授業態度の観察 定期考査 提出 スト 定課題 漢字テ	授業態度の観察 定期考査 提出 定課題 作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』（随想） 『言葉を理解する』（評論） 『マスク』（小説） 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	『博士の愛した数式』（小説） 『おまえはどこに立っている』（随想） 『小説とは何か』（評論） 小テスト、作文、漢字テスト
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院
教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院
「常用国語便覧」浜島書店
「新版高校漢字必携」第一学習社編集部
各種プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習(発表)
グループ学習(発表)

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース 看護・医療	
目 標	文学作品を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解により、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。また、現代社会で求められる言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけ活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話しの確に聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる。客観的に主体的に思考、判断することができる。
	A わかる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	相手や場に応じて話し聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる力を磨く。客観的に主体的に思考、判断する力を磨く。
	B できる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解することができる。自分の考えを文章にまとめられる。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現しようと努力する。客観的に主体的に思考、判断できる力をつけようと努力する。
	C する	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分での考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察 定期考査 提出 スト 定課題 漢字テ	授業態度の観察 定期考査 提出 定課題 作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』（随想） 『言葉を理解する』（評論） 『マスク』（小説） 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	『博士の愛した数式』（小説） 『おまえはどこに立っている』（随想） 『小説とは何か』（評論） 小テスト、作文、漢字テスト
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院
教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院
「常用国語便覧」浜島書店
「新版高校漢字必携」第一学習社編集部
各種プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習(発表)
グループ学習(発表)

科目名		数学演習	授業時数	週 4 単位	3 学年
			コース	研志 コース	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。				

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	数学的な考え方を理解し，様々な事象に応用することが出来る。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	問題に直面したとき，数学的な考え方を使って論理的に思考することが出来る。
	A わかる	応用問題に対して，適切な公式を用いて論理的に解くことが出来る。	1つ1つの考え方や，数学的な思考を論理的に，適切に順序立てて他者に説明することが出来る。	様々な問題に取り組み，他者と協力しながら解き進めることが出来る。
	B できる	標準的な問題に対して，適切な公式，考え方をを用いて解くことが出来る。	論理的に順序立てた回答を作成することが出来る。	できないところは解答解説を参考にしたり，他者に聞くなどして試行錯誤しながら解くことが出来る。
	C する	類題の解答解説を参考にしながら解くことが出来る。	問題文の意味を理解し，解答解説を参考にしながら，回答を作成することが出来る。	あたえられた課題に取り組み，期限内に提出物を提出することが出来る。
評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	SPI対策 就職試験対策
2 学期	SPI対策 就職試験対策
3 学期	就職試験対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ＋A』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名		数学演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
			コース	研志 コース	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	数学的な考え方を理解し、様々な事象に応用することが出来る。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	問題に直面したとき、数学的な考え方を使って論理的に思考することが出来る。
	A わかる	応用問題に対して、適切な公式を用いて論理的に解くことが出来る。	1つ1つの考え方や、数学的な思考を論理的に、適切に順序立てて他者に説明することが出来る。	様々な問題に取り組み、他者と協力しながら解き進めることが出来る。
	B できる	標準的な問題に対して、適切な公式、考え方をを用いて解くことが出来る。	論理的に順序立てた回答を作成することが出来る。	できないところは解答解説を参考にしたり、他者に聞くなどして試行錯誤しながら解くことが出来る。
	C する	類題の解答解説を参考にしながら解くことが出来る。	問題文の意味を理解し、解答解説を参考にしながら、回答を作成することが出来る。	あたえられた課題に取り組み、期限内に提出物を提出することが出来る。
評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	SPI対策 就職試験対策
2 学期	2次関数のグラフ 2次方程式と2次不等式 三角比 場合の数と確率
3 学期	就職試験対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ＋A』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名		コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	3 学年
			コース	研志 コース	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方を行うことができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本文や基本問題を読んだり，解くことができる。	新出単語や表現について理解し，適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	that節
2 学期	疑問詞+to+不定詞 分詞構文 関係代名詞what 過去完了形
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication Ⅱ』 数研出版 COMET コメット英単語プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	英会話	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア・保育・看護
目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	An advanced understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks diligently completed in a timely manner
	A わかる	An upper intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	Above-average completion of all tasks with minimal supervision
	B できる	An intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An intermediate written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks completed but requires supervision
	C する	An elementary understanding of vocabulary & key expressions	An elementary written & verbal usage of vocab & key expressions	Constant supervision & reminding of the task at hand required
評価方法		Written test	Oral test	Class supervision & observation

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	受動態・現在完了・関係代名詞・付加疑問
2 学期	ライティング・リスニング・スピーキング
3 学期	

何で学ぶか(教材)

旺文社 英検書 2022年度版 英検3級 過去6回 全問題集 COMETコメント英単語
--

どのように学ぶか(授業方法など)

タブレット教材 グループ学習、ペア学習 個別学習

教科名	自己表現	授業時数	週 2 単位
		コース・学年	研志 コース 3 学年
・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 目 標 ・子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもにかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	使える活用Ⅱ ・子どもの発達段階に即したかかわりをする	・子どもが関心を抱くものを作成・表現する	・子どもの発達に関心をもつ
	できる活用Ⅰ ・子どもの発達段階路理解する	・子どもが関心を抱くものを見いだす	・保育に対する関心をもつ
	わかる習得 ・子どもの発達段階に応じた対応を身につける	・子どもの発達段階や興味関心によって個々に応じた対応をする	・子どもに関心を持ち、意欲的に子どもとかかわろうとする
研志力(仮)	整理・分析力、行動力 他者受容力	整理・分析力、行動力 他者受容力、自己表現力	整理・分析力、行動力 他者受容力、自己表現力
評価方法	・定期考査 ・保育実習	・保育実習 ・総合発表会等準備	・保育実習 ・総合発表会等準備

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5～7月 幼稚園実習 ・施設見学、給食補助 ・保育への参加 ・表現・リズム遊び ・絵本の読み聞かせ
2 学期	8～10月 幼稚園実習 ・運動会・発表会の練習補助、見学 9～12月 幼稚園実習、総合発表会の準備 ・グループワークによる調べ学習 ・作品作り
3 学期	

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、実習

科目名	商品開発	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	商品を企画・開発し，流通させるために必要な技術，商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け，活用することができるか。	商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに，ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断できる。	商品活動に関する諸活動を主体的に考える，実践的な態度を身に付けているか。
	顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して，思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。
	商品開発に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	商品開発について関心を持って取り組むことができる。
	商品開発に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	デザインの基礎 パッケージデザイン グラフィックデザイン 知的財産権の内容
2 学期	知的財産権の取得 知的財産権の活用 流通の仕組みと市場 物流と流通を支えるその他の活動
3 学期	総合実習

何で学ぶか(教材)

教科書
商品開発 実教出版
問題集
商品開発 実教出版

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式
グループ活動

科目名	電子商取引	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	情報通信ネットワークを活用した商取引や、広報活動に必要な文書に関する知識と技術を習得させ、各種メディアで作成した情報を統合させることの重要性について理解させるとともに、電子商取引に応用する能力と態度を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	相手に分かりやすく伝えるための資料作成や表現方法を身につけさせ効果的な発表ができる。	使用するソフトウェアの操作方法を習得し、適切な文書や作品をWebページデザインとして作成することができる。	効果的な広報活動に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。
	A わかる	Webデザインに必要な知識を理解できる。	情報モラルやマナーを守る必要性を理解することができる。	電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を学ぼうとしている。
	B できる	電子商取引に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	電子商取引について関心を持って取り組むことができる。
	C する	電子商取引に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報通信技術の進歩とビジネス コンテンツの作成
2 学期	ウェブデザインと広告と広報 ウェブページの公開 電子商取引とビジネス
3 学期	電子商取引とビジネス

何で学ぶか(教材)

教科書 電子商取引 実教出版

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC実習

科目名	地理A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に着けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。
	A わかる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち，問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し，情報を読み取り整理してまとめることができる。
	B できる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち，問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し，情報を読み取ることができる。
	C する	現代世界の地理的な諸課題を理解し，その知識を身につけている。	過去の出来事が，現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	地球上の位置と国家 グローバル化がすすむ世界 人々の生活と地形 人々の生活と気候
2 学期	人々の生活と産業・文化 各国の生活・文化
3 学期	各国の生活・文化 地球的課題

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理A』
帝国書院『高等学校 新地理Aノート』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	探究
目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	A わかる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとすることができる
	B できる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとすることができる。
	C する	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようとすることができる。
評価方法	- 授業 - 定期テスト	- 授業 - 定期テスト - 提出物	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実践ノート型問題集現代社会 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	ビジネスマナー	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	ビジネスに関するマナーとコミュニケーションの知識・技術を習得し、ビジネスの諸活動における円滑な人間関係を築く能力と態度を育てる。秘書検定取得に取り組む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S 使える A わかる B できる C する	日常生活の場面で応用することができる。	日常生活でのマナーに関する知識の活用方法を適切に判断し、コミュニケーション力を身につけることができる。	ビジネスマナーを理解し、効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	挨拶や好感を与える立ち居振る舞い，身だしなみの重要性を理解する。	マナーやコミュニケーションについての思考を深め，自身の現状を適切に把握することができる。	ビジネスマナーやコミュニケーションについて主体的に考え，発表し合うことができる。
	ビジネスマナーに関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	ビジネスマナーとコミュニケーションの諸活動に広い関心がある。
	ビジネスマナーに関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ビジネスマナーにおける 理論，実技の要点 必要とされる資質，職務意識 一般意識，マナー・接遇，技能
2 学期	秘書検定過去問題集演習 各種検定（漢検・英検），校内漢字テスト対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

問題集 秘書検定3級実問題集 早稲田教育出版

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ活動 実習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	ビジネスに関する情報を収集，処理，分析し，表現する知識と技術を習得させ，情報の意義や役割について理解させるとともに，ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 情報を適切に収集，処理，発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集，処理，発信する場合に，方法を工夫したり，目的に応じて手段や方法を改善できる。	情報を収集，処理，表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる 情報を適切に収集，処理，発信するための基礎的な知識を身につけている。	情報を収集，処理，発信する場合に，方法を工夫したり，目的に応じて手段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	B できる 情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	C する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル ビジネスと情報 表，グラフの作成 PowerPointの操作
2 学期	ビジネス情報の処理と分析 関数の利用 表，グラフの作成 プレゼンテーション
3 学期	

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 PC実習

科目名	体育	授業時数	週	3	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	キャリア探究・公務員		
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	体育	授業時数	週	3	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	保育・幼児教育系進学		
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようことができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこな い、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	体育	授業時数	週	3	単位	3	学年
		コース・学年	研志		コース		看護医療福祉系進学
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育・幼児	
目標	栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ，食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	食事の役割と意義について理解し，食事を構成する栄養，食品，料理様式と献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し，実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ，思考を深めることができ，考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち，作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ，主体的に行動することができる。
	A わかる	食事の役割と意義について理解し，食事を構成する栄養，食品，料理様式と献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ，思考を深めることができ，判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち，作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
	B できる	食事の意義や役割を理解し，基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ，判断ができる。	食の役割に関心を持ち，作る・食べる計画をたてることことができる。
	C する	食事の役割と意義について基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

フードデザイン （実教出版） フードデザイン学習ノート（実教出版） プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護医療
目標	栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ，食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	食事の役割と意義について理解し，食事を構成する栄養，食品，料理様式と献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し，実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ，思考を深めることができ，考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち，作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ，主体的に行動することができる。
	A わかる	食事の役割と意義について理解し，食事を構成する栄養，食品，料理様式と献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ，思考を深めることができ，判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち，作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
	B できる	食事の意義や役割を理解し，基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ，判断ができる。	食の役割に関心を持ち，作る・食べる計画をたてること
	C する	食事の役割と意義について基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができてい
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

フードデザイン（実教出版） フードデザイン学習ノート（実教出版） プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習

科目名	子どもの発達と保育	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育・幼児
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し，発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ，主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A	わかる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだし，表現方法を身につけている。	保育に対する関心をもち，子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B	できる	作品づくりや実習を通して，子どもが関心を抱くものに関する基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し，子どもに関わる意欲を身につけている。
	C	する	作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して，子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法			授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	幼稚園実習 子どもの生活 (生活習慣の形成・健康管理と事故防止)
2 学期	作品制作と発表会準備・実践 子どもの保育 (保育の意義と重要性・家庭保育と集団保育・保育の方法)
3 学期	

何で学ぶか(教材)

子どもの発達と保育（教育図書） 学習ノート プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	子ども文化	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	幼児・保育
目 標	①子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得し、子ども文化の充実を図る能力と態度を身につける。 ② 作品作りを通してそれぞれの活動や文化財の活用方法を学習していく。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	子どもの発達段階に応じた遊びの種類や特性を知り，保育者として年齢に合わせた適切な関わりを身につけている。	乳幼児の保育について課題を見いだし，その解決を目指して思考を深めることができる。生涯にわたって適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	他者と，異なる世代との関わりを主体的に持ち，共に生きる力を育てる実践的な態度を身につけ，乳幼児の健全な成長に関心を持っている。
	A	わかる	保育士，幼稚園教諭など保育に関する職業観について深く学び，保育者としての振る舞いを身に付けている。	乳幼児の保育について課題を見いだし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	異なる世代との関わりを主体的に持ち，共に生きる力を育てる態度を身につけている。
	B	できる	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得し，自立して生活する能力を身につけている。	乳幼児の保育について課題を見いだし，その解決を目指して思考を探ることができる。	異なる世代との関わりを主体的に持つ態度を身につけている。
	C	する	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得している。	乳幼児の保育について課題を見いだす努力ができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法			授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	保育者の役割 保育とは 保育士、幼稚園教諭の仕事 遊びと保育
2 学期	子どもの遊び 児童文化財 総合発表会
3 学期	

何で学ぶか(教材)

家庭309 子ども文化 （教育図書株式会社） プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	国語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育	
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTP0に応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 入試レベルの問題演習において、漢字や語彙が正しく解答できる。	S 入試レベルの問題の演習において、正しく解答することができる。	S 入試レベルの問題演習を積極的に解き、復習し、読解力を向上させるよう努めている。
	A わかる 演習問題において、漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	A 問題演習において、根拠をもって正しく解答できる。	A 問題演習において、時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	B できる 漢字や語彙の力が向上している。	B 問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	B 問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出している。
	C する 問題演習に取り組んでいる。	C 問題演習に取り組んでいる。	C 問題演習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題

何で学ぶか(教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 講義による解説

教科名	美術演習	授業時数	週 2 単位
		コース・学年	研志 コース 3 学年
・美術大学の受験に特化し, 美術理論と美術の専門科目に対応できる能力を身につける。・美術の学習内容に関心をもち、制作や鑑賞へのあこがれや期待をもつ・最終学年になり, 志望大学, 学部, 学科の決定, それに伴う受験対策の強化をする。			
目 標			

どのような力を, どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える活用Ⅱ	実践するために必要な知識を身につける	制作活動や技法を適切に判断できる	・それぞれの技法の特徴を考える
	できる活用Ⅰ	目的に応じた道具や技術を選択する	様々な技法を用いて基礎的な制作をする	・様々な技法について学ぼうとする
	わかる習得	大学の中での芸術活動の意義と役割を理解する	様々な技法を用いて表現できる	・様々な技法を用いて制作することができる
研志力(仮)		自己表現力, 計画力	自己表現力, 計画力	自己表現力, 計画力
評価方法		課題の提出	課題の提出	課題の提出

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5, 6月 木炭デッサン制作 石膏 人物 7, 8月 デザイン構成
2 学期	9月 油絵の基礎 10, 11月 油絵の制作, 受験対策 12月 受験対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

画用紙、木炭紙、木炭 デザインセット 油絵セット キャンバス 等
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 演習

科目名	音楽演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育・幼児	
目標	保育・幼児教育で取り扱う教材や、それらを展開するために必要なピアノ演奏技術を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	大譜表の読み方を理解し、鍵盤を見なくても正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティケレーションでハーモニーを感じながら鍵盤を見なくても演奏することができる。	目標を設定し、到達できるまで繰り返し練習することができる。
	A わかる	アーティケレーションを示す記号等を理解し、正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティケレーションで演奏することができる。	練習したことを他と聴きあい、互いに評価ができる。
	B できる	楽譜の読み方を理解し、正しい姿勢と運指で両手の演奏することができる。	曲想に合わせたテンポで演奏することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
	C する	正しい姿勢と運指で片手ずつの演奏することができる。	メトロノームに合わせ、正しいリズムで演奏することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	全訳バイエルピアノ教本 P42～46
2 学期	全訳バイエルピアノ教本 P47～53
3 学期	全訳バイエルピアノ教本 P54～56

何で学ぶか(教材)

全訳バイエルピアノ教本 (全音楽譜出版社)

どのように学ぶか(授業方法など)

個人・ペア練習 1ページごとにチェック

科目名	看護医療研究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 看護	
目標	看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し、チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け、また他者を思いやり尊重する態度を養う。医療福祉従事者としての心構えを身に付けると同時に、必要とされる資質や知識・技術を身に付け高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	看護・医療・福祉の各分野に関する知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解し日常生活に応用を図ることが出来る。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を理解し、習得した基礎的な技術の他者への応用を図ることが出来る。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し率先して能動的に取り組むことができる。
	A わかる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解している。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を考え理解し、基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。
	B できる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割の理解に努められる。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決に意欲的に取り組むことができる。
	C する	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を理解し、深めようとする。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持つことができる。
評価方法		授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	社会福祉協議会との連携授業 【地域包括ケアシステム・老年体験等】 専門学校出前講座(岡山医療福祉専門学校) 専門学校出前講座(洛和会京都厚生学校)
2 学期	鳥取看護大学連携授業 認知症サポーター養成講座 医療従事者による講和 看護医療福祉時事研究 I
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	看護基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	医療看護を取り巻く現状や基礎的知識・技術を学び、医療従事者を目指すうえで必要な資質の体得と向上を図り、進学への動機づけにつなげる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	A わかる	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現することができる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	B できる	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断できる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むことができる。
	C する	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけようとしている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 看護師に必要な資質 医療看護を取り巻く社会背景 理学療法士について
2 学期	看護と倫理 看護と日常生活援助 理学療法士について 対象別看護
3 学期	受験指導

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	国語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看医福
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTP0に応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 入試レベルの問題演習において、漢字や語彙が正しく解答できる。	S 入試レベルの問題の演習において、正しく解答することができる。	S 入試レベルの問題演習を積極的に解き、復習し、読解力を向上させるよう努めている。
	A わかる 演習問題において、漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	A 問題演習において、根拠をもって正しく解答できる。	A 問題演習において、時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	B できる 漢字や語彙の力が向上している。	B 問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	B 問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出している。
	C する 問題演習に取り組んでいる。	C 問題演習に取り組んでいる。	C 問題演習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題

何で学ぶか(教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 講義による解説

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 看護	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる 基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 生物の特徴 第 2 章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第 3 章 体内環境と恒常性 第 4 章 植生の多様性と生態系
3 学期	

何で学ぶか(教材)

第一学習社 改訂版 新生物基礎(319) 第一学習社 ネオパルノート生物基礎

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 グループ活動
